

富山県小矢部市

平成27年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2016年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、2015（平成27）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。
2. 調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、桜町遺跡（1）は有限会社毛野考古学研究所に、同遺跡（4）と田川条里遺跡は株式会社エイ・テックに業務支援を委託した。担当は次のとおりである。

調査事務：大野淳也（生涯学習文化課主査）
現地調査 常深 尚（有）毛野考古学研究所富山支店）：桜町遺跡（1）
岡田一広（株式会社エイ・テック）：桜町遺跡（4）、田川条里遺跡
大野淳也：上記以外
3. 現地調査の作業員は、（公社）富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。
4. 本書の編集・執筆は基本的に大野が担当したが、桜町遺跡（1）については常深氏に、田川条里遺跡については岡田氏に執筆を依頼した。
5. 土層の色調については『新版 標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。
6. 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図	3
桜町遺跡（1）	4
田川条里遺跡	8
蓑輪条里遺跡	10
報告書抄録	12

事 業 の 概 要

平成27年度の概要

2015（H27）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は11件である。いずれも市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を受け、試掘調査を10件と、分布調査を1件行った。さらに開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請に伴う問い合わせ等は合わせて80件以上あった。

調査の原因は、開発行為別にみると、個人の住宅建設、店舗建設、公共事業に伴うものなどがある。事業の原因者は、個人3件、民間事業所5件、公共団体3件である。

今年度は東部産業団地内においてアウトレットモールが開業し、昨年までの開業に向けた同施設周辺の桜町・西中野地内での民間事業所による商業施設建設等の事業が減少し、それに伴って全体の調査件数も減少したが、引き続き桜町遺跡での調査が最も多く、4件の試掘調査を実施した。

以下、調査種類別に各々の調査について概要を報告する。試掘調査の結果については本書次項で報告する。

遺跡分布調査

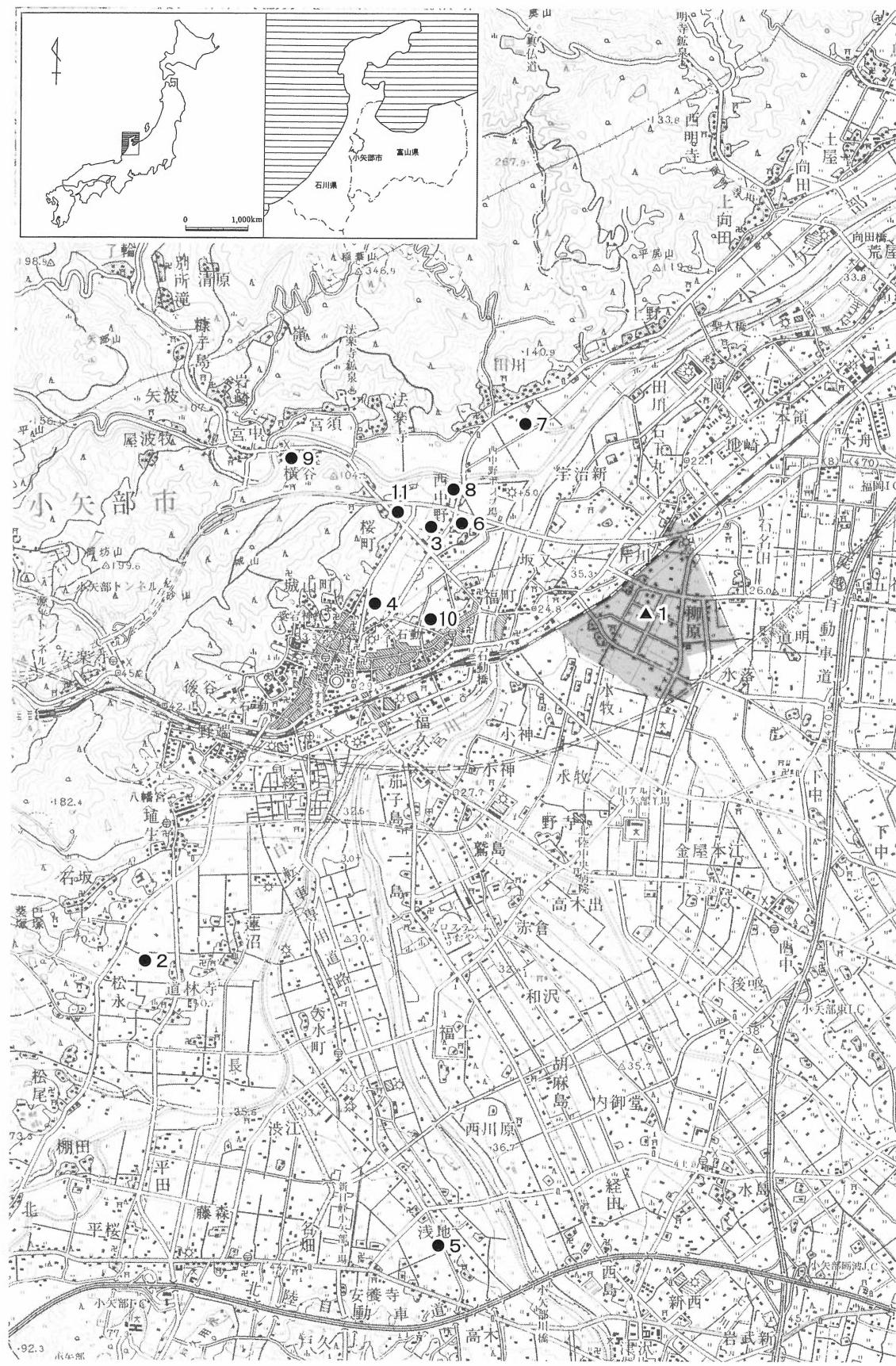
分布調査は、市街地西方にある芹川地区の水牧遺跡隣接地で実施した。現在計画されている県営農地整備事業に先立つもので、周知の埋蔵文化財包蔵地にはなっていない場所であったが、事業面積が790,000m²と広大であるために事前に確認した。この範囲には、過去に分布調査を実施して遺物が確認されなかった部分や、周辺の遺跡の調査等から遺跡の広がりが予想されない部分も含まれていたことから、主に西側の水牧遺跡に近い場所を4月の耕作前に踏査した。その結果、最も西側の約30,000m²の範囲において須恵器や土師器を採取した。この範囲については、平成28年度の秋に試掘調査を実施して、遺跡の広がりを確認する予定である。

近年、市内において農業関連の大規模な開発行為の計画が増えているが、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であっても新たな遺跡が発見される例があるため、機会を得て踏査等を実施し、注意して対応する必要がある。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No.	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期間	調査結果	調査原因
1	水牧遺跡隣接地	芹川・柳原地区	790,000m ²	分布調査	27.4.16	須恵器、土師器を採取	県営農地整備事業
2	日の宮・道林寺遺跡	石坂338	985m ² (20m ²)	試掘調査	27.5.21	遺構、遺物確認されず。	農業施設建設
3	桜町遺跡(1)	桜町字産田 1658外	5,978m ² (300m ²)	試掘調査	27.6.2~10	溝、土坑、柱穴(古代、 中世)検出。 土師器、須恵器、中世土 師器、珠洲焼出土。	商業施設建設
4	石動条里遺跡(1)	八和町654-1	479m ² (20m ²)	試掘調査	27.6.18	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
5	蓑輪条里遺跡	浅地584外	954m ² (40m ²)	試掘調査	27.7.28	溝、穴(古代・中世)検 出。 土師器、中世土師器出土。	グループホー ム及びデイサ ービス施設建 設
6	桜町遺跡(2)	西中野字小三昧 前829-1	8m ² (4.86m ²)	試掘調査	27.9.3	遺構、遺物確認されず。	看板設置
7	田川条里遺跡	田川7058外	26,636m ² (734.9m ²)	試掘調査	27.10.14 ~16及び 11.4~13	溝(近世以降)検出。 土師器(古墳時代)、唐 津焼、土人形出土。	土地改良総合 整備事業
8	桜町遺跡(3)	西中野字古田 1090-5外	2,973m ² (104m ²)	試掘調査	27.10.21 ~22	下駄(近世)出土。 遺構確認されず。	ホテル及びア パート建設
9	宮中条里遺跡	横谷10外	600m ² (7m ²)	試掘調査	27.12.8	遺構、遺物確認されず。	県道改良
10	石動条里遺跡(2)	西福町961-39 外	264.23m ² (4.38m ²)	試掘調査	28.1.28	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
11	桜町遺跡(4)	桜町字中出 1789-1外	528m ² (41.3m ²)	試掘調査	28.3.17	溝、穴(時期不明)検出。 土師器、須恵器(古代) 出土。	デイサービス 施設敷地拡幅

市内遺跡発掘調査等事業位置図



桜町遺跡(1)



図1 調査位置図 (1 : 5,000)

1. 調査の概要

今回の調査は店舗開発に伴う試掘調査であり、現地調査は6月2日から10日にかけて行なった。幅1m、長さ20mの試掘トレンチを15本設定し、重機により表土を掘削、人力によって平面断面の精査を行なった。最大掘削深度は100cm、掘削面積は合計300m²である。

基本層序は図3のとおりである。調査対象地の北西部はやや微高地となり、南ないし東に向かつて緩やかに低地へと移行する。微高地では遺構検出面のVa層を地山として、一定量の遺構を検出した。Va層上に遺物包含層であるIV層が堆積するが、遺物量はごく少ない。Va層は低地ではVb層へと変化しながら、堆積は薄くなっていくものの、断面では引き続ぎ遺構が検出される。低地部ではIX層上面での遺構検出を試みたものの遺構は検出されず、直上の黒色土(VII層)においても遺物の出土は確認されなかつた。T12は地盤改良によって地山が大きく掘削され遺構面は消失していた。T1・T2では遺構が全く検出されなかつた。

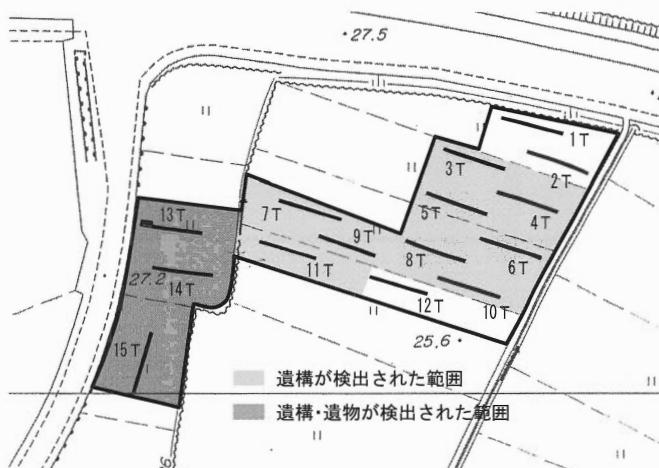


図2 トレンチ位置図 (1 : 2,500)

2. 遺構

Va層の上面で溝、土坑、ピットなどを検出した。溝はT8とT14で北西から南東方向、T13で北東から南西方向、T15で東西方向である。幅は0.6m～2.6mである。土坑は円形ないし橢円形を呈し、T5・T10で径2.0m程の規模の大きいものがあり、T7・T9・T13では径1.0m以下の小規模なものを検出した。ほかに、T9では畠跡の畠間の溝の可能性がある小溝を、T10では耕作痕とみられる攪拌された痕跡を確認した。調査地西側のT13～T15では遺構の残存状況が比較的良好で、検出した遺構は確実に遺物を含んでいた。

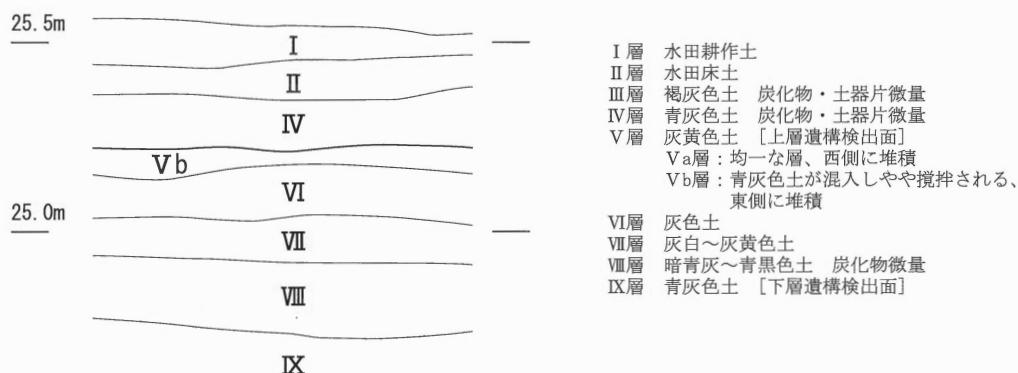


図3 基本層序 (T4西側, 1:20)

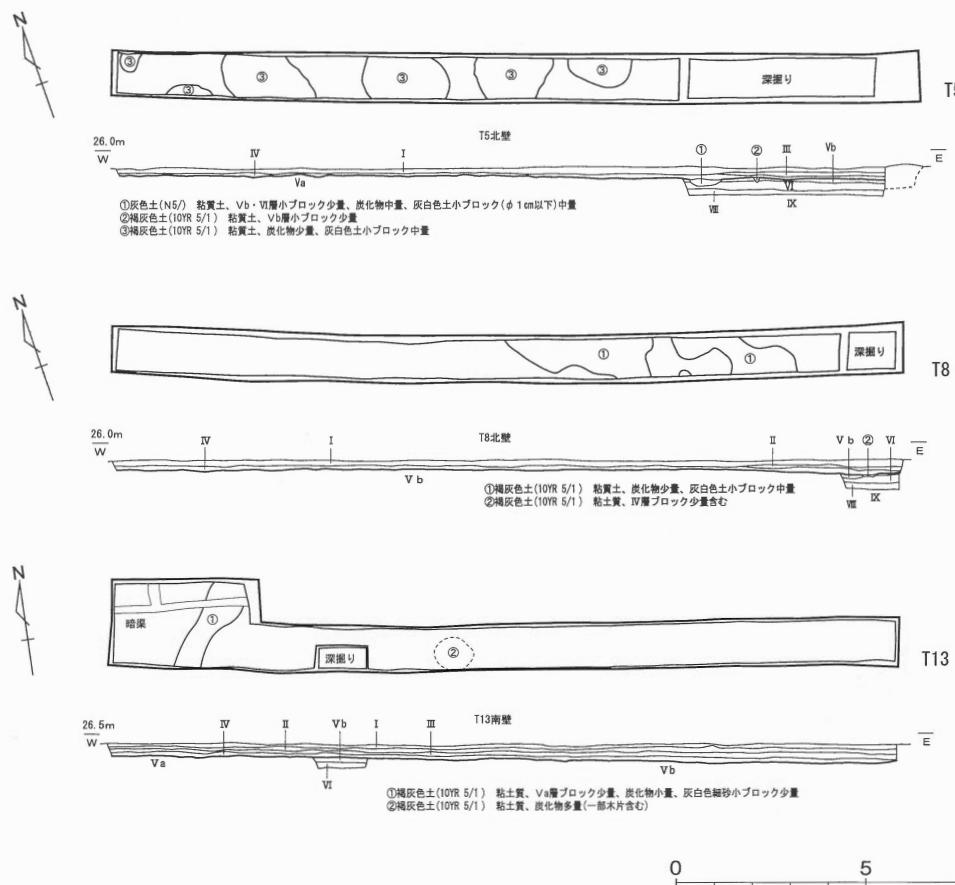


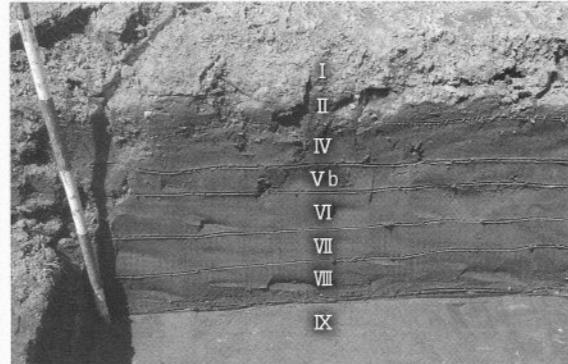
図4 T5・T8・T13 平断面図 (1:200)

3. 遺物

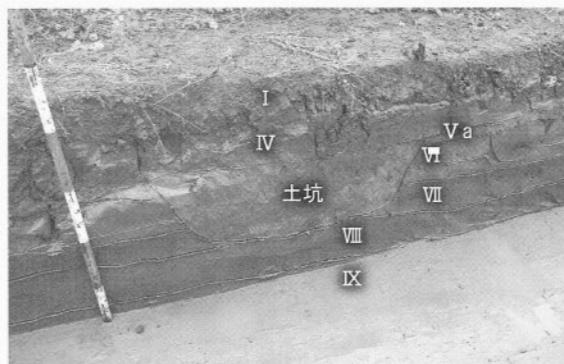
出土遺物は古代の土師器・須恵器、中世土師器、珠洲などがあり（図5）、T13・T14で比較的多く出土している。1・2はT13の遺構検出面で出土した奈良時代の須恵器杯蓋と杯である。3はT5の表土から出土した平安時代の須恵器双耳瓶の小片である。4はT13の遺構検出面で出土した室町時代の土師器皿である。5はT5の表土から出土した珠洲の甕である。



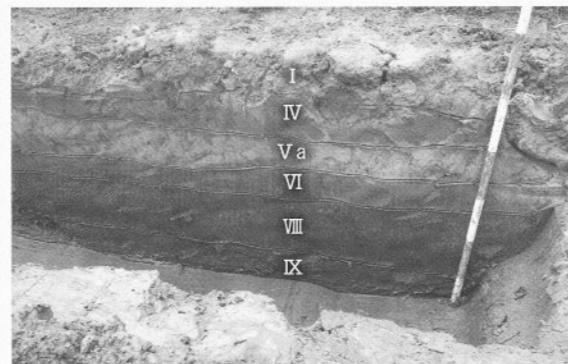
調査地周辺（東から）



T4 北壁土層断面（南から）



T3 北壁土層断面（南から）



T7 北壁土層断面（南から）



T5遺構検出状態(西から)



T8遺構検出状態(東から)



T10遺構検出状態(西から)



T13遺構検出状態(西から)

3. まとめ

調査地点は、桜町遺跡産田地区における昭和59年度及び平成5年度の調査区の南側に隣接し、過去の調査では、飛鳥～奈良時代の掘立柱建物、平安時代の道路遺構、中世の溝などが検出されていた。今回の試掘調査では掘立柱建物は検出できなかったが、T3～T10では疎らであるが溝や土坑が検出され、古代の遺物も散在することから、調査地にも古代の集落が広がることが想定される。T13～T15のある調査地西側は、遺構検出面の遺存状況が良く、遺物も比較的多く出土した。

T13の西端で検出された溝は、平成5年度調査の道路遺構 SF-9301の東側側溝 SD-9302の延長部分と考えられるもので、道路遺構の南への延伸が確認された。幅は約60cmで、方位はN-38°-Eを示す。またT15の北側では幅約1.4mの東西方向の溝が検出された。平成5年度調査では、南北方向の溝 SD-9305が中世の条里坪界線になる可能性が指摘されており、T15の溝はそれに直交する方位を示すことから、関連する溝の可能性も考えられる。

以上のことから、今回の試掘対象地内には古代と中世の遺構・遺物が分布し、とくに西側で遺存状況が良いことが明らかとなつた。

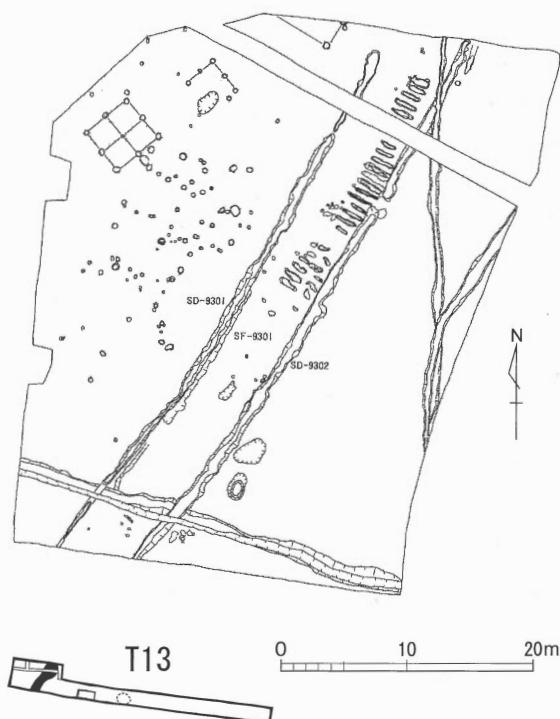


図6 平成5年度調査区とT13 (1:600)

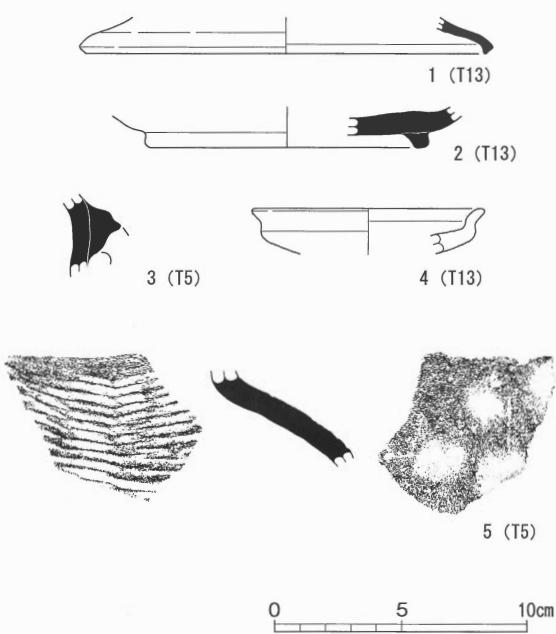
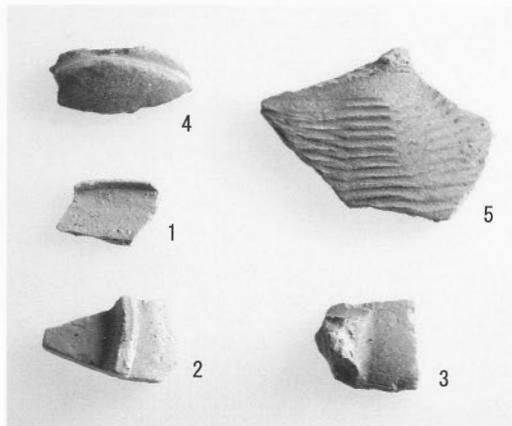


図5 出土遺物 (1:3)



出土遺物写真

田川条里遺跡



図7 調査位置図

(1 : 10,000)

1. 調査の概要

今回の調査は土地改良総合整備事業の暗渠排水工事に先立つ、試掘調査である。今回の調査対象面積は26,636m²で、調査面積は734.9m²である。調査は2期に分け、平成27年10月14日から10月16日、11月4日から11月13日の実働10日で実施した。

本調査地区は遺跡の中央部に位置し、標高は約24~27mである。調査は幅1.0mの試掘トレンチを水田区画長手方向に27本設定した。重機によって表土および堆積土を掘削し、最大掘削深度は100cmである。

基本層序は、I層；灰黄褐色細粒砂質シルト（水田耕作土）、II層；褐灰色粘土質シルト（現代造成土）、III層；褐灰色シルト質粘土（近世以降検出面）、IV層；黒色粘土（遺物包含層）、V層；褐灰色粘土質シルト（地山）である。

これまでの場整備で削平や盛土がされており、個々のトレンチでも様相が異なる。III層は部分的に堆積する。IV層からは古墳時代の土師器が12トレンチから出土するが、他のトレンチからは出土していない。

2. 遺構

遺構は、13・15・16・18・20・21・23トレンチで溝を検出した。溝から遺物は出土しなかつた。これらの溝は覆土等からいざれも近世以降のものと推測する。

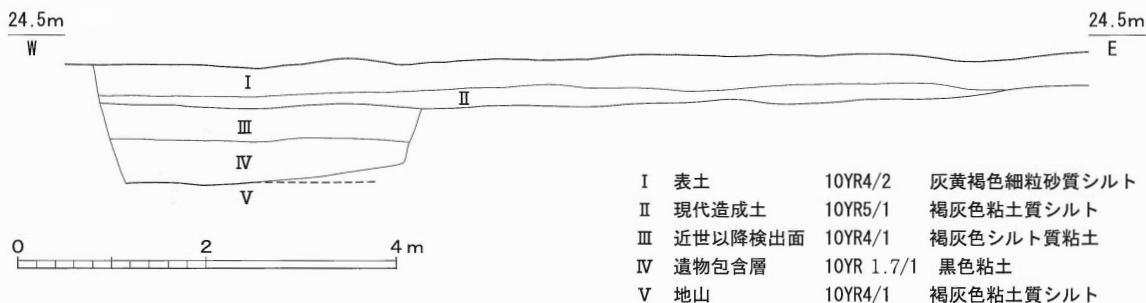


図8 24トレンチ土層図 (1 : 80)

3. 遺物

I層では13・20・21トレンチから伊万里・唐津・土人形、IV層では12トレンチから土師器が出土した。1・2は土師器である。1は小型壺の口縁部である。2は胴部で内外面はハケメ調整である。3は唐津の鉢で、外面に灰釉を施す。4は土人形の婦人坐像である。

4. まとめ

13・15・16・20・21・23トレンチから溝を検出した。遺構から遺物の出土はなかったものの、現代造成面もしくは地山面からの検出であったことから、近世以降の比較的新しい時期の遺構と推測できる。また、顕著な遺物の出土はなかった。

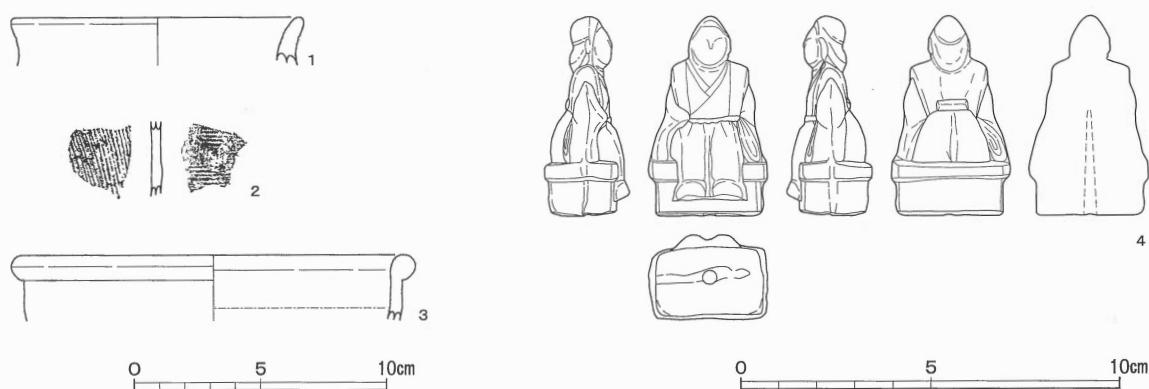


図9 出土遺物 (1 : 2 · 1 : 3)



出土遺物 (1 : 2 · 1 : 3)



24トレンチ全景・断面

蓑輪条里遺跡



図10 調査位置図
(1 : 10,000)

1. 調査の概要

蓑輪条里遺跡は市街地南方の小矢部川左岸の低い段丘上に位置し、東西約500m、南北約3kmの広がりをもつ大きな遺跡である。古代・中世の条里地割が残る範囲として1993年（平成5）に新たに設定された遺跡で、浅地遺跡、高木遺跡、蓑輪遺跡、興法寺遺跡の一部をその範囲に含んでいる。

今回の調査は蓑輪条里遺跡の範囲の北端近く、浅地遺跡の範囲から南東にわずかに外れる場所で、グループホーム及びデイサービス施設の建設に先立ち実施した。

開発予定地は空き家となった個人住宅とその周辺の水田を含む範囲であるが、住宅および付属建物の取り壊し前の調査実施を要望されたため、宅地部分を除外して、その東側の水田および西側の水田部分の2ヶ所で1m×10m程の試掘トレーンチを各2本、計4本設定して確認調査を実施した。トレーンチは重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は最大で90cm前後となった。

基本層位は、東側の田圃部分では1層：黒褐色シルト（耕作土）、2層：黒色シルト、3層：暗褐色粘質シルトで、安定した面と考えられる3層上面までの深さは50cm程度であった。一方、西側の田圃部分では1層の耕作土の直下に4層：褐色粘質シルトがあり、深さ約20cmのその上面において遺構を検出した。

2. 遺構

遺構は、西側田圃部分のT3において穴1基、T4において穴9基と溝1条を確認した。特にT4においては遺構が集中しており、一部に切り合いも認められた。

3. 遺物

遺物は、T3の穴1から古代の土師器、T4の穴10からは中世土師器の破片が出土した。

4. まとめ

今回の調査地周辺では、かつて実施された圃場整備事業によって大規模な削平や盛土が行われて平坦化されているが、遺構が検出された西側田圃部分のように旧地形が残る部分もあることが明らかとなった。なお、遺構・遺物が検出された西側田圃部分については、今回の開発では盛土を施して駐車場敷地として保存するよう要請した。

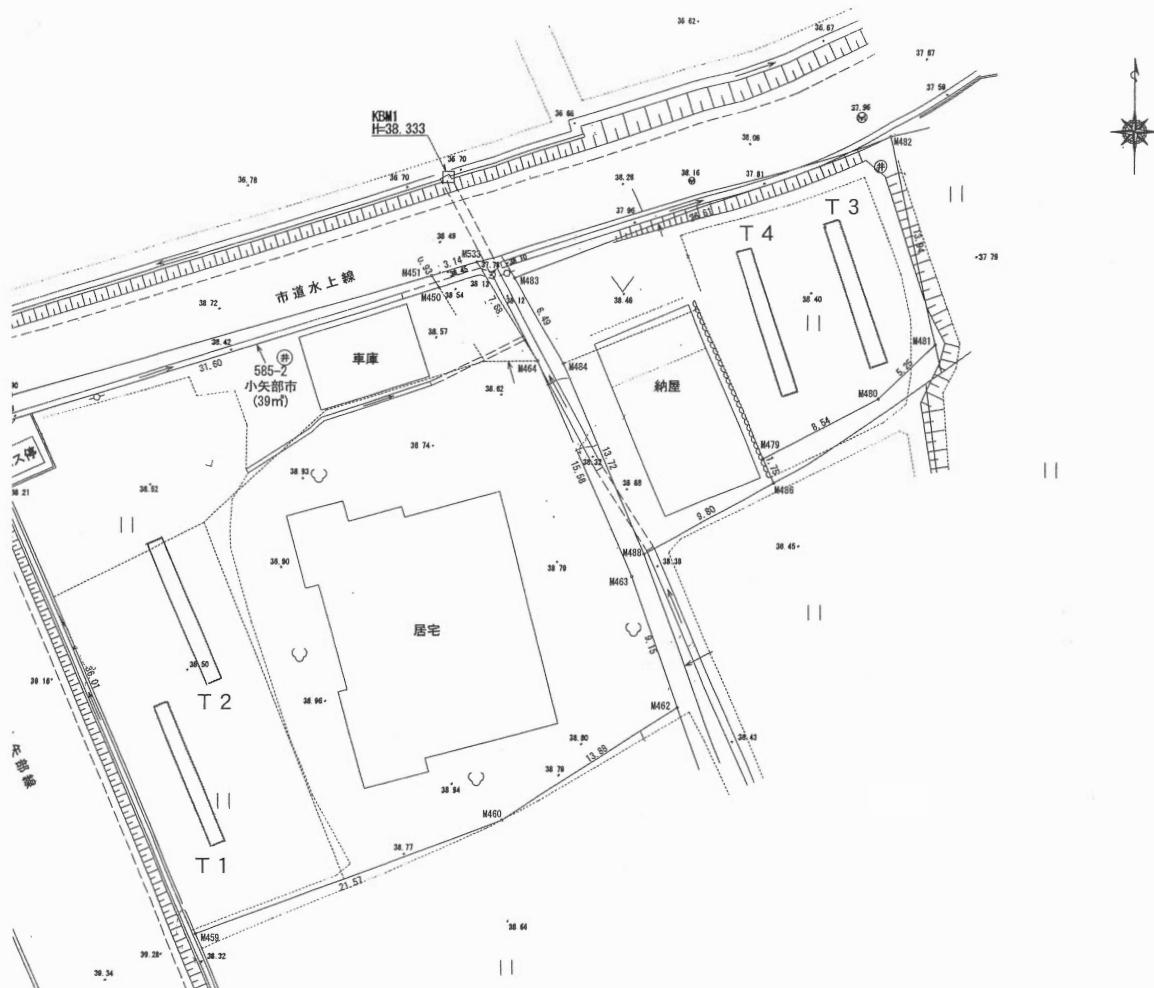


図11 トレンチ位置図 (1 : 500)



T 3 遺構検出状況



T 4 遺構検出状況

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせいにじゅうななねんどおやべしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほう							
書名	平成27年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報							
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第78冊							
編著者名	大野淳也 常深尚 岡田一広							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査対象 面積(m ²)	調査原因
市町村	遺跡 番号	。	〃	。	〃			
さくらまちいせき 桜町遺跡(1)	おやべし 小矢部市 さくらまちあざさんでん 桜町字産田 ほか 1658外	16209	021	36° 41' 17"	136° 52' 30"	20150602 ～ 20150610	5,978	商業施設建設
たがわじょうり いせき 田川条里遺跡	おやべし 小矢部市 たがわ 田川 ほか 7058外	16209	180	36° 41' 39"	136° 53' 04"	20151014 ～ 20151113	26,636	土地改良総合 整備事業
みのわじょうり いせき 蓑輪条里遺跡	おやべし 小矢部市 あさじ 浅地 ほか 584外	16209	188	36° 37' 56"	136° 52' 39"	20150728	954	グループホー ム及びデイサ ービス施設建 設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
桜町遺跡(1)	集落	古代・ 中世	溝、土坑、柱穴	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲				
田川条里遺跡	集落	古墳・ 近世	溝	土師器、唐津、土人形				
蓑輪条里遺跡	集落	古代・ 中世	溝、穴	土師器、中世土師器				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第78冊

富山県小矢部市

平成27年度 小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発 行 日 平成28年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1-1

T E L 0766-67-1760

印 刷 トッププリント

